

3 高齢者下垂体腫瘍の治療の実際

米岡有一郎・渡邊 直人・藤井 幸彦

新潟大学脳研究所脳神経外科

【背景】平均余命の延長による高齢者人口の増加に伴い、経蝶形骨洞手術を考慮すべきトルコ鞍部および傍鞍部病変を有する高齢症例に遭遇する機会が増えている。内視鏡下経蝶形骨洞手術（eTSS）は低侵襲であるため、80歳を越える患者が手術適応を有する場合も増えている。

【目的】当科における80歳を越える患者に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術の安全性および有効性について検討する。

【方法】2012年以降、当科で施行されたeTSSのうち、80歳を超える患者に施行された症例を抽出し、実態を後方視的に検討した。

【結果】2012年1月から2013年10月まで、当科で施行されたeTSSはのべ109例であり、平均年齢50.8歳（12-92歳）であった。うち80歳を超える患者は6例であり、男性2例、女性4例、平均年齢83.8歳（81-92歳）であった。症例の内訳は、非機能性下垂体腺腫3例、ラトケ嚢胞1例、脊索腫1例、髄膜腫1例であった。摘出（積極的減圧）目的が3例、主に生検目的が3例であった。摘出目的の3例、下垂体腺腫2例、ラトケ嚢胞1例では、視路減圧が実現され、自覚的視野改善を得た。生検目的の3例（下垂体腺腫1例、脊索腫1例、髄膜腫1例）では生検目的は達成された。6例全てが全身麻酔で施行され、平均手術時間は2h49m、平均麻酔時間は4h52mであった。ラトケ嚢胞の1例で、麻酔からの覚醒時に冠攣縮性狭心症を経験するも、1時間で緩解した。髄膜腫の1例では、胃原発悪性リンパ腫の既往あり、合併する下垂体機能低下、重症糖尿病、腎機能障害、水頭症進行、胸椎圧迫骨折から多臓器不全にいたり生検後3か月で死亡した。これらの6例で手術関連合併症は存在せず、eTSSによるADL低下は認めなかった。

【考察】eTSSは、80歳を超える高齢者にも、ADLを低下させずに施行可能ではあるが、高齢者ゆえの全身状態および合併症に留意が必要である。

4 HCG/FSH療法にて2児を得た男子低ゴナドトロピン性性腺機能不全症の1例

津田 晶子・涌井 陽子・荻原 智子
原 昇*

木戸病院糖尿病内科
新潟大学医歯学総合病院泌尿器科*

【主訴】拳児希望，家族歴無し。

【現病歴】生来二次性徴発来欠如と外性器発育不良あり。2003年7月石川県A病院受診。外性器 Tanner 1° テストステロン 25ng/dl LH < 0.2mIU/ml FSH 0.3mIU/ml と低値。嗅覚異常なし。MRI 異常無し。染色体異常無し。週1回 HCG 5,000u 注射開始。2006年3月テストステロン 79ng/dl と反応不良だが、「女性に間違えられなくなった。ED改善」などの効果があり。転居にて2006年3月末新潟県B病院転院したが、5か月後治療が不要と言われ治療終了。同時期結婚。

2008年12月治療再開を希望し当院初診。Testis 高度に委縮し精子数ゼロ。下垂体負荷試験にてゴナドトロピンのみ低反応。週3回の HCG・r-FSH 併用療法を開始しテストステロンは速やかに正常域に上昇、8か月後に精子形成確認、18か月後に自然妊娠成立、更に22か月後には第二子誕生した。治療開始年齢が遅いためか骨粗鬆症の改善は不良であり今後の課題である。

5 重症アトピー性皮膚炎に合併する電解質異常についての検討

西崎 淑美・阿部 裕樹

新潟市民病院小児科

重症アトピー性皮膚炎に伴う電解質異常の病態は十分に解明されていない。17年間に当科で経験した5名につき検討した。

全例で高K性代謝性アシドーシスを来しており、尿細管性アシドーシスIV型の病像と一致し、背景にアルドステロン不応性の存在が考えられた。重症アトピー性皮膚炎に伴う電解質異常では、偽性低アルドステロン症I型と類似の病態が